

宇宙ビジネスアイデアのコンテスト S-Booster にて ポーラ・オルビスグループのビジネスアイデアが最終選抜へ



株式会社ポーラ・オルビスホールディングス(本社:東京都中央区、社長:鈴木郷史)のグループ横断メンバーによる宇宙ビジネスアイデア2件が、宇宙ビジネスアイデアコンテスト S-Booster 2018(エス・ブースター 2018)の一次・二次選抜を勝ち残り、11月19日に行われる最終選抜会に臨みます。

経緯

S-Booster は、宇宙という“素材”を活用したあらゆるビジネスアイデアを発掘するコンテストです。ポーラ・オルビスグループは、2018年1月より新たな研究体制を整えるなど、新たな価値の創造に力を入れています。自社グループが目指す将来像に有用なヒントを得ること、また自社内のイノベーションのさらなる活性化を目的として、S-Booster に協賛・参加しています。

ポーラ・オルビスグループからは2チームがファイナリストへ

本年度は、総応募数約200件のうち、一次・二次選抜を経て12件が最終選抜に進出しました。最終選抜会では、専門家のメンタリングによりさらにブラッシュアップされたアイデア作品が賞をかけて競い合います。当グループからは2件のアイデア提案が勝ち進み、ファイナリストとなりました。いずれもグループ横断チームによるもので、3年以内の事業化を目指す「ビジネスプラン部門」でのエントリーです。

ポーラ・オルビスグループからは、チームYOT(by POLA)による「美肌衛星予報」、およびチームFun-Gによる「宇宙でのQOL向上のための、肌と微生物の共生」が審査に臨みます。

チーム「YOT (by POLA)」



ライター
安全性の
スペシャリスト

大久保禎
ポーラ化成工業 研究所
製品評価部



美容開発の
スペシャリスト
山川弓香
ポーラ
商品企画部



皮膚科学の
スペシャリスト
多田明弘
ポーラ化成工業 研究所
製品開発部

35年間、安全性のスペシャリストとして化粧品開発を支えてきた大久保を中心に、美容、皮膚科学の経験豊富なスペシャリストたちが最強タッグを組みました。

【アイデア】 「美肌衛星予報」

ポーラ所有の1,750万件を超える肌データと衛星データを融合させ、美容と健康に特化したデータプラットフォーム「美肌衛星予報」を創出します。

チーム「Fun-G」



ライター

佐々祥子
ポーラ化成工業 研究所
フロンティアサーチセンター



仁王厚志
ポーラ化成工業 研究所
フロンティアサーチセンター



谷添有紘
オルビス
商品企画部

若手を対象とした次世代人材育成のためのグループ横断研修「未来研究会」修了生の有志がチームを結成。次世代を担う若手の、未来に対する想いが光ります。

【アイデア】 「宇宙でのQOL 向上のための、肌と微生物の共生」

宇宙特有の肌環境に着目し、微生物との共生を軸に宇宙で過ごす人類のQOLを向上させる事業を提案します。

【補足】

S-Booster について



S-Booster は、内閣府宇宙開発戦略推進事務局、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、及び民間スポンサー企業が実行委員会となって、宇宙という“素材”を活用したあらゆるビジネスアイデアを発掘するコンテストです。宇宙産業の裾野の拡大に向けて、宇宙にとどまらない産業領域や団体属性を超えたつながりを形成することを目指し、ベンチャー企業や個人、大学などから宇宙に関する技術やデータ、ノウハウなどを利用したビジネスアイデアの提案を広く求めます。

事業化が見込まれる有望なアイデアに対しては、表彰にとどまらず、内閣府、JAXA、NEDO および民間スポンサー企業が専門家を交えたディスカッションやさまざまなサポートを通じて支援を行い、さらなる技術開発や事業化につなげていくことを目標としています。

【S-Booster の概要】

名称 : S-Booster 2018 (エス・ブースター 2018)

主催 : S-Booster 2018 実行委員会 (内閣府宇宙開発戦略推進事務局、JAXA、NEDO、民間スポンサー企業で構成)

専用ウェブサイト : <https://s-booster.jp/>

ポーラ・オルビスグループの研究体制について



1) 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

「Multiple Intelligence Research Center (MIRC:マルチプルインテリジェンスリサーチセンター)」化粧品 of 既存の枠を超えた新価値創出を狙い、グループ視点での研究戦略および知財戦略を策定し、研究成果のグループ最適配分の役割を担います。また、マーケットリサーチとイノベーション案件の探索に特化した専任スタッフを配置し、全世界から次世代のニーズを収集、最先端技術との連携や投資案件の探索を行ないます。

2) ポーラ化成工業株式会社 「Frontier Research Center (FRC:フロンティアリサーチセンター)」グループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社のFRCは、MIRCで決定した戦略に基づいて、新価値創出を目的とした研究を実行し、新規・既存事業へ活用するシーズを創出する役割を担います。



エス ブースター
「S-Booster 2018」 最終選抜会開催のお知らせ

平成 30 年 11 月 9 日
「S-Booster 2018」実行委員会

内閣府宇宙開発戦略推進事務局
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
ANA ホールディングス株式会社
株式会社大林組
スカパーJSAT 株式会社
日本航空株式会社
株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
株式会社ローソン

この度、11月19日に「S-Booster 2018」最終選抜会を開催することとなりましたのでお知らせいたします。

「S-Booster」は優れた宇宙ビジネスアイデアの発掘を目的として2017年にスタートしました。2回目の開催となる今年は、3年以内の事業化を想定した「ビジネスプラン部門」、10年以内の実現を目指した「未来コンセプト部門」の2部門で募集を行いました。また、昨年度よりもさらに充実した事業化支援を行うために賞金最高額1,000万円を準備しています。

「S-Booster 2018」では、4月27日より5月31日まで、新たな宇宙ビジネスアイデアの募集を行いました。最終選抜会当日は、一次・二次選抜を通過し、専門家によるメンタリングを経てブラッシュアップされた合計12作品のファイナリストが集結し、選りすぐりの宇宙ビジネスアイデアを発表します。

また、「S-Booster2017」受賞者による新たな宇宙ビジネスの進捗紹介と共に、経済的観点なども踏まえた今後の宇宙ビジネスの展望について語るスペシャルトークショーも開催いたします。

ご多用中とは思いますが、新たな宇宙ビジネスが生まれる瞬間となりますのでこの機会に是非取材いただきますようお願いいたします。

※「S-Booster 2018」専用ウェブサイト：<https://s-booster.jp/>

1. 開催日時 平成30年11月19日(月)14:00～17:45
(プレス受付開始は13:00開始予定)
13:00～14:00 は実行委員会展示ブース並びに各機関・企業への取材を行なっていただけます。
2. 場所 渋谷ストリームホール
(東京都渋谷区渋谷3-21-3)

3. プログラム(詳細別紙1参照)

- (1)オープニング
- (2)ビジネスプラン部門 プレゼン(8組)
- (3)未来コンセプト部門 プレゼン(4組)
- (4)スペシャルトークショー
- (5)受賞作発表・表彰式、フォトセッション、囲み取材

4. 取材申し込み

取材をご希望の方は、別紙3の申込書に必要事項を明記の上、**【11月15日(木)17時まで】**メールもしくはFAXでお申込みください。

お申込みいただいた方には折り返し当日のご案内をお送りいたします。

申込先 E-mail s-booster2018@jsforum.or.jp / FAX 03-5296-7010

5. ライブ配信

当日は、YouTubeによるライブ配信を行います。

<https://www.youtube.com/watch?v=doR4cLnYJ6c>

6. 参考

「S-Booster 2018」宇宙ビジネスアイデア募集開始のお知らせ

<https://www.value-press.com/pressrelease/200643>

別紙1 最終選抜会プログラム詳細

別紙2 実行委員会紹介

別紙3 取材申込書

【お問い合わせ・取材申し込み先】

「S-Booster 2018」実行委員会事務局
一般財団法人 日本宇宙フォーラム 榎、成田

TEL: 03-6206-4902

E-mail: s-booster2018@jsforum.or.jp

プログラム詳細

※プログラム内容・時間等は予告なしに変更になる場合がございます。予めご了承ください。

時間	内容
13:00	プレス受付開始 実行委員会による紹介展示ブース及び各機関・企業への取材
14:00	開会
14:02-14:05	主催者挨拶 S-Booster2018 実行委員会 実行委員長代理 内閣府宇宙開発戦略推進事務局 高田 修三
14:05-14:20	各賞、ファイナリスト、審査プロセスの紹介
14:15-14:20	プレゼン準備
14:20-14:28	ビジネスプラン部門①「ヒコーキをアンテナ化！海の上でも衛星データ受信サービス」 チーム名:A0-Links 代表者:津上 哲也 地球観測衛星(特に小型衛星)は、顧客ユーザーに提供するための必要なデータ以外の観測データは、使われずに上書きして捨てられています。この捨てられているデータを旅客航空機で回収することで、データバックアップ&利活用のサービスを構築します。
14:28-14:36	ビジネスプラン部門②「美肌衛星予報」 チーム名:YOT (by POLA) 代表者:大久保 禎 衛星データとポーラ所有の1,750万件を超える肌データを融合させ、美容と健康に特化したデータプラットフォームを創出する。さらに、衛星データの中でも、肌に影響を及ぼす近赤外光に着目し、その予防とケアを、「美肌衛星予報」として BtoC、BtoB へ展開する。宇宙技術を美容・健康へ積極的に投資する顧客に繋げ、社会全体の発展に貢献する。
14:36-14:44	ビジネスプラン部門③「宇宙から見つけるポテンシャル名産地」 チーム名:天地人 代表者:繁田 亮 近年、栽培技術の発展に伴って、伝統的に栽培されている作物以外にも、より生産性の高い作物が生産可能になってきたが、その可能性は見過ごされがちである。そこで衛星から得られる地形の3Dマップや細かい粒度での降雨・日照等を複合的に分析し、その時・その土地で最適な作物を探し出し、営農戦略に反映させる。
14:44-14:52	ビジネスプラン部門④「静止測位衛星による津波早期警戒サービス」 チーム名/代表者:長尾 年恭 本グループがGPSデータ解析で発見した『津波電離圏ホール』を用いる事で、巨大地震の初期津波高を宇宙から正確に予測できる事が判明した。さらに静止測位衛星を用いる事で、近い将来発生が確実な南海トラフ巨大地震震源域が常時モニターでき、GPS衛星の移動による全電子数変動がない安定した津波予測を実現する。
14:52-15:00	ビジネスプラン部門⑤「宇宙でのQOL向上のための、肌と微生物の共生」 チーム名:Fun-G 代表者:佐々 祥子 地球上とは異なる宇宙特有の肌環境に着目し、微生物との共生を軸に宇宙で過ごす人類のQOLを向上させる事業を提案する。微生物を操る技術に着目し、一般人が宇宙で快適に過ごすために最適な肌環境へ導くことで、民間での運用が急速に進む宇宙旅行・滞在の大衆化に貢献する。
15:00-15:08	ビジネスプラン部門⑥「旅客機のレーダー衛星化によるビッグデータ事業」 チーム名:A0-Links 代表者:宮下 陽輔 旅客機に衛星用のレーダーを搭載して地球観測を実施し、それを既存の衛星データと組み合わせた解析システムを構築します。このシステムにより、衛星だけでは獲得できなかった高頻度・高解像度データを常時大量に取得し、災害救助に役立てると共に、ビッグデータ事業により従来になかった衛星データ利用法を開拓します。

15:08-15:16	<p>ビジネスプラン部門⑦「成層圏における微生物採取請負人」</p> <p>チーム名:チーム スペースドリフター 代表者:近藤 憲</p> <p>成層圏には特殊な微生物が存在するといわれています。その微生物をバルーンを使って低コストで採取しようと考えています。採取した微生物は、最新のゲノム解析などで由来や特性を分析します。</p> <p>紫外線に強い微生物などから新物質や新しいメカニズムが発見され、新素材や病気の治療に役立つ可能性があります。</p>
15:16-15:24	<p>ビジネスプラン部門⑧「ロケット海上打ち上げ」</p> <p>チーム名:森琢磨・山田龍太郎 代表者:森 琢磨</p> <p>2030年までに小型衛星打ち上げ市場は13兆円に成長するが、6兆円分は供給不足。小型ロケット開発は躍進しているが、打ち上げ施設が追い付いていない。一方で海洋掘削リグは40%が待機状態、作業料は1/2、中古市場は数億円にまで下落している。海上打ち上げ施設単体の民間運用は世界初であり、需給が不均衡にある今がチャンス。</p>
15:24-15:30	<p>未来コンセプト部門①「地球上から月面基地開発可能なテレプレゼンスロボットの実現」</p> <p>チーム名:GITAI 代表者:中ノ瀬 翔</p> <p>地球上から月面基地開発作業が可能な次世代テレプレゼンスロボットの実現。地球-月間の限定的なネットワークインフラ上で通信可能なテレプレゼンスロボットを開発し、地球上から遠隔で月面基地開発作業を行えるようにすることで、月面基地開発にかかるコストを大幅に下げ安全面の課題も解決する。</p>
15:30-15:36	<p>未来コンセプト部門②「地球内部のCTスキャン」</p> <p>チーム名/代表者:大出 大輔</p> <p>地球内部のデータには、地下資源探索や、人命に関わる事故の防止など、無限の価値があります。本提案では、宇宙から地球に降り注ぐ宇宙資源である「宇宙線」を用いて、人間をCTスキャンすると同様に、地球をCTスキャンすることで、地球の地下構造を明らかにし、全世界的により豊かで安心安全な社会へ発展することを目指しています。</p>
15:36-15:42	<p>未来コンセプト部門③ 「超小型衛星群とグローバル地上局ネットワークによる地震発生予測」</p> <p>チーム名/代表者:鴨川 仁</p> <p>統計的な有意性が検証されている地震先行電離圏変動検知だけに特化した非常に安価な超小型衛星もしくは他衛星との相乗りミッションとしてセンサーを搭載し、準リアルタイム地震短期直前予測を実現する。最終的には30機程度の衛星群で全球を常時モニターし、地震多発国や保険業界等に地震予測情報提供サービスを行う。</p>
15:42-15:48	<p>未来コンセプト部門④「Aurora for ALL」</p> <p>チーム名/代表者:田中 沙季</p> <p>オーロラは予測できない、いつ見れるかわからない、発生するまで外でじっと待たなくてはならない、と思っている人が多いはず。しかしこれはオーロラ観測への思い込み、先入観なのです。</p> <p>オーロラは人工衛星で確実に予測することができ、30日周期で綺麗な光を放ちます。オーロラの発生周期を予測し、確実に見れる日に見に行ける方法を提案します。</p>
15:48-16:00	休憩
16:00-16:50	<p>スペシャルトークショー「宇宙ビジネスアイデアを具体化していくためには？」</p> <p>「S-Booster 2017」受賞者による事業進捗報告、宇宙ビジネスに関するディスカッション</p> <p>出演者: 「S-Booster2017」受賞者 松本 紋子 氏</p>

	<p>(ANA ホールディングス株式会社 デジタル・デザイン・ラボ イノベーション・リサーチャー (兼)宇宙事業化プロジェクトメンバー)(大賞、スカパーJSAT 賞受賞)</p> <p>石北 直之 氏 (NHO 渋川医療センター／STONY)(ANA ホールディングス賞受賞)</p> <p>青木 義男 氏 (日本大学 理工学部 精密機械工学科 教授)(大林組賞受賞)</p> <p>福代 孝良 氏 (一般社団法人宇宙利用新領域開拓機構 代表理事)(審査員特別賞受賞)</p> <p>アクセラレーターゲスト: 尾崎 典明 氏(一般社団法人 TX アントレプレナーパートナーズ 副代表理事) モデレーター:青木 英剛氏(グローバル・ブレイン株式会社 宇宙エバンジェリスト)</p>
16:50-17:05	休憩、授与式準備
17:05-17:43	<p>審査結果発表、授与式</p> <p>①スポンサー賞(各 1 作品)</p> <p>②審査員特別賞(1 作品)</p> <p>③未来コンセプト賞(1 作品)</p> <p>④最優秀賞(1 作品)</p>
17:43-17:45	<p>総評、閉会挨拶</p> <p>平井卓也 内閣府特命担当大臣(宇宙政策)(予定)</p>
17:45	閉会
17:45-18:00	フォトセッション
18:00-18:15	囲み取材(受賞者、実行委員)

S-Booster 2018 実行委員会紹介

S-Booster 2018 は 9 企業・機関から成る実行委員会により運営されています。

実行委員長 平井卓也 内閣府特命担当大臣(宇宙政策)

実行委員メンバー企業・機関

内閣府宇宙開発戦略推進事務局
内閣府宇宙開発戦略推進事務局では、2017年5月に「宇宙産業ビジョン2030」を取りまとめました。このビジョンに基づき、ベンチャー企業のみならず、学生や個人、異業種のアイデアなども幅広く集め、事業化の可能性検討などの支援を行っていきたくと考えています。
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)
JAXAは、宇宙産業における新たなプレーヤーを歓迎するとともに、宇宙開発利用を技術で支える中核的実施機関として、保有する技術等を活用した支援を実施します。 また、宇宙利用の拡大及び産業振興に向けて、民間事業者等との協働や技術面での支援・助言等による新たな事業の創出等の取り組みを、JAXAとしても主体的に推進していきます。 S-Booster2018では、社会課題の解決や人類の活動領域の拡大につながるようなビジネスアイデア、宇宙を人々にとってより身近なものにするようなビジネスアイデア等、幅広い提案が集まることを期待しています。
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
NEDOは、日本最大級の公的研究開発マネジメント機関として、「エネルギー・地球環境問題の解決」「産業技術力の強化」の2つのミッションに取り組んでいます。 こうしたミッションのもと、研究開発型スタートアップ向けの支援として、シーズ発掘から事業化までシームレスな支援を実施しています。 今後発展が予想される宇宙産業においても、起業家やスタートアップによる新しい技術開発／事業化の支援を実施していきます。
ANAホールディングス株式会社
ANAは1952年に2機のヘリコプターで事業を開始したベンチャー企業です。現在は航空運送事業を中核としながら、商社事業、旅行事業、物流事業、教育関連事業など、多岐に渡る事業展開をしています。 顧客体験の更なる向上や、新たな価値創造を目指して宇宙分野にも注目しており、宇宙ベンチャー企業への出資や協業検討を進めています。S-Booster2018では、ANAグループの有する有形・無形資産の活用による革新的なビジネスアイデアや、次世代の顧客サービスとなり得るようなアイデアを期待しています。 宇宙と非宇宙の掛け合わせによる新たな価値を共に造っていきましょう。
株式会社大林組
大林組は、社会インフラ整備や街づくりなど建設事業をコアビジネスとして、事業領域の深化・拡大やグローバル化を進めています。 その新たな事業領域として宇宙開発を探求し、2012年に宇宙エレベーター建設構想を発表しました。S-Booster2017ではテザー技術を使った宇宙空間での通信ネットワーク構築や月惑星での基地建設・資源開発などに着目し、建設業の更なる可能性にもつながる宇宙開発技術の研究開発に取り組んでいます。 S-Booster2018では宇宙アセット・各種データを活用した新たなビジネスアイデアや宇宙エレベーターによる物流、月惑星での資材調達など宇宙開発を進める技術を発掘するとともに、事業化に向けたサポートも行います。 皆様の革新的なご提案を期待しています。
スカパーJSAT株式会社
スカパーJSATは創業以来、「デジタル」「ネットワーク」を武器に、日本最大の衛星有料多チャンネル放送と、最大の衛星通信事業者として、グローバルな領域で多くのサービスを創ってきました。我々はその経験から、社会の変化に敏感であり、唯一無二のリソースを活用しながら社会貢献を目指します。そして、自らの変化を恐れずに新しいサービスを創造していくことにチャレンジしています。「宇宙」というこれから創造される市場において、人々の暮らしに、豊かさと楽しさと安心安全をお届けできるような、新しいビジネスアイデアをお待ちしています。すべては人々の笑顔のために――。共に未来を創造しましょう。

<p>日本航空株式会社</p> <p>JAL は 1951 年に創立し、日本初の国際線サービスを開始、パイオニアとして日本の空を切り拓いてきました。IoT や AI などの技術が指数関数的に進歩し、社会の変化が激しくなるこれからの時代、「空」との親和性があり、無限の可能性を秘めている宇宙分野に中長期的な視点で関わり、航空と宇宙の事業シナジーを生み出していけるよう挑戦していきます。</p> <p>S-Booster2018 では、JAL が蓄積してきた航空輸送のノウハウと顧客基盤を活用し、社会課題を解決し新しい価値を提供するような宇宙ビジネスを共に創り、宇宙産業の進歩発展に貢献していきたいと思いをします。</p>
<p>株式会社ポーラ・オルビスホールディングス</p> <p>ポーラ・オルビスグループは、創業 100 周年を見据えて掲げた「感受性のスイッチを全開にする」という理念のもと、化粧品やサービスだけでなく、様々な体験、情報、文化、アートなどの独自価値の提供を通じて、人々の感受性を刺激し、人生を変えるほどのきっかけを与える企業グループとして革新し続けるために、宇宙分野にも関心を持っています。宇宙を意味する cosmos と、化粧品を意味する cosmetics は、ともに「秩序、調和」が語源とされており、混沌の中から美しい秩序や調和が生まれてきたように、これからの私たちの人生をもっと楽しく、心豊かに変える事業や、それに挑戦する人との新たな出会いや発見を期待しています。</p>
<p>株式会社ローソン</p> <p>— 私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします —</p> <p>ローソンは、日々環境の変化に対応し、お客さまのニーズにお応えすることで、マチの暮らしにとって“なくてはならない存在”として進化してきました。</p> <p>今、ローソンは宇宙での生活を見据え、2020 年からあげクン宇宙食認証をめざしています。</p> <p>これから宇宙開発が進み、人が月に仕事や旅行で滞在することが当たり前になる時代に「コンビニがあったら？」</p> <p>その時に必要なアイデアをお持ちの方ぜひご応募ください。</p> <p>月でのコンビニ展開は、現在抱えている人手不足の解消や省力化など、地上での課題解決に役立つことを望んでいます。</p>

S-Booster 2018 最終選抜会 取材申込書

以下の必要事項にご記入の上、メールもしくは FAX にて事務局までお申込みください。

申込先 E-mail s-booster2018@jsforum.or.jp / FAX 03-5296-7010

締切 2018 年 11 月 15 日(木)17 時必着

会社名	
代表者氏名	フリガナ
代表者連絡先	電話番号
	メールアドレス
取材人数	代表者含めて 名
取材種別	ムービー 台
	スチル 台
	ペン 名
連絡事項	事務局への連絡事項がある場合はこちらにご記入ください。 事前に特定の実行委員会機関・企業への個別取材希望が分かっている場合はご記入ください。